

**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

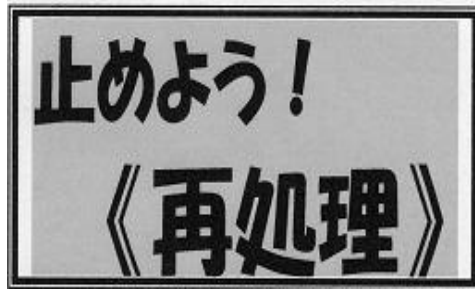
ミニコミ通信 第44号
署名用紙は **ここに**あります

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《岩手の環境／R I 廃棄物／再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2007 (平成19) 年

9月 30日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

岩手県議会環境福祉常任委員会



放射能は微量でも危険

京都大学原子炉実験所

小出裕章参考人講演

**小出参考人講演要旨
臨界事故の教訓**

岩手県議会環境福祉常任委員会は九月四日開催され、「岩手の会」の提出した「海に、空に、放射能を流さないことを求める」請願について審議しました。請願者の推薦する京都大学原子炉実験所の小出裕章参考人は約一時間の講演で「放射線はエネルギーの塊であり、微量でも危険を伴う」とし、「フランスの技術を導入した日本の再処理工場は、英仏同様に広範な環境汚染を免れる事はありません」と力説しました。委員から疑問点が出され活発な質疑がなされました。

①八年前のJCO臨界事故では、放射線を急性致死量以上に浴びて、二人の死者を出した。それは体温を一千分の二度ほどあげるに過ぎないエネルギーであったが、それで人間は死に至る。私たちの体は炭素や酸素、酸素といった原子が結合して分子をつくり、細胞を再生産して生きていくが、放射線は細胞の遺伝・再生情報をバラバラにしてしまい、人体の再生機能を奪ってしまうからである。

②細胞の原子が互いに結びつけている結合エネルギーは、せいぜい

数電子ボルトでごく微弱である。しかし、六ヶ所再処理工場から流される、例えばトリチウムの出す放射線のエネルギーは一万八六〇〇eV(電子ボルト)もある。セシウムは六六万eV、プルトニウムは五一〇万eVもある。

「許容量」は引き下げられ続けている

③一八九五年レントゲンがX線を発見して以来、研究者を始めとする悲惨な被曝の経験から、年々「許容量」は大幅に引き下げられ厳しくなってきた。米国科学アカデミーや国際ガン研究機関は大規模疫学調査により「被曝にしきい値はなく、「最小限の被曝であっても人体に危険

を及ぼす可能性がある」という結論を出した。「許容量」は誰が決めるのか

④再処理を進める学者の中には「確かに放射能は微量でも危険である。しかし、社会的メリットから比して『容認出来る量』がある」といつている人が居る。しかしどこまで容認できるかは、一部の学者が決めることではない。例えば三陸の海への放射能放出を容認出来るかどうかは、岩手県民の安全に係わることであり、岩手の人々の判断に委ねられるべきことである。しかも影響を受けるのは未来を担う子ども達である。

つかく閉じこめていた「死の灰」をわざわざ切り刻み、プルトニウムを取り出す化学工場で、放射能を環境に出す。

⑦再処理工場は原発並みの濃度規制を行おうとする「毎日百万リットル」を必要とする。これは事実上不可能なのであって濃度規制を設けず垂れ流しとされる。

「O・O二重シールド」は全くの仮定

⑧「住民の被曝0・022mSv/年」は「仮定に仮定」を積み重ねての計算であり、係数が一つ違えば、何倍にも異なる数値となる。

膨大な「死の灰」

⑤チェルノブイリ事故では広島原爆の八〇〇発分の放射能が放出され、本州の約六割に当たる面積が深刻な汚染値になった。原発の炉心にはこのように大量の死の灰がある。

⑥広島島の原爆のまき散らした放射能の一千倍の放射能を原発一基が作り出す、六ヶ所再処理工場が一年間に取り扱う放射性物質は、一般原産三〇基分にもなる。六ヶ所再処理工場は、せい

⑨トリチウムやクリプトンの除去技術はすでに開発されている。もちろんかなりのコストは掛かることになる。

**委員からの質疑・意見
六ヶ所付近の測定値は？
及川幸子委員** 小出先生は国に対してどのような意見を述べてきたのか？六ヶ所周辺の放射線測定値はどうか？

小出氏「データを示して再処理はやめるよう要請した。国は「エネルギー政策として必要」と答えている。六ヶ所周辺の松葉や海岸の砂を調べている。今のところは出て

いない。本格稼働すれば
検出されるだろう」
細胞に入り込む

「数万電子ボルト」

高橋元委員 トリチウムは体内に入っても出ていくので安全という説があるが、本当か？

小出氏「トリチウムは体に入ってから半分に排出される。しかし、体細胞を作る原子結合エネルギーは数万電子ボルト。トリチウムは一万八千電子ボルト。このトリチウムが水のように体に満遍なく侵入して細胞の遺伝・再生情報に悪影響を与えないとは言えない」

放射能には、半減期はあっても自然浄化はない

高橋博之委員 再処理の廃ガスとクルマの排気ガスの経口致死量との違いは何か？再処理推進の原因は何か？

小出氏「クルマの一酸化炭素は酸素や炭素と結びついて炭酸ガスになったり水になったりして無害化される。放射能は、核分裂によるものであるから化学変化しても放射能は消えない。半減期が長いものは放射能を出し続ける。希釈拡散は汚染を広げるのみである」核の研究は

ウラン濃縮・再処理・核分裂の三点を確立すれば、核兵器製造を可能とする。日本は諸外国から疑惑の目を向けられるところまでできてしまった」

どうしたら止められるのか？

三浦陽子委員 放射能の怖さや食の安全を考えると心配になる。再処理はどうしたら止められるのか

小出氏「六ヶ所再処理工場は経済的には破綻している。プルトニウムは使い道がない。電力政策からしても負担が大きいです。どこかで考え方を転換すべきである。岩手県でもさらに専門家を呼んで賛否両論を闘わせ

県民の判断を仰ぐべきと思う」

原発の使用済み燃料をどうするの？

小野寺有一委員 原発の使用済み燃料の廃棄をどうするのか。除去技術はどうなのか

小出氏「除去技術はすでに確立している。しかし膨大なお金がかかる。取り出したトリチウムやクリプトンは、ボンベに入れて放射能防壁を施し、人間の居住区域で目を離さず管理するのが一番安全である」

以上の審議がなされ、判断は十月十日の委員会以降に持ち越されました。(記事・尚)

傍聴席から感想

(盛岡・山田・宮古から五人が傍聴しました)

○委員の皆さんが活発に議論しておられました。○トリチウムは十日で半分排出されるが、その間にも、放射線で体内の細胞が傷を付けられるという説明が目撃されました。

○参考人は、子ども達とくに低年齢の子ども程、放射線の影響を受けやすいことを、グラフで示しました。細胞分裂が活発な低年齢では、例えば赤ん坊は全年齢平均値の三〜四倍の影響が出るといえます。そこが、特に女性が一番心配しているところであり、未来の県民を視野に入れた岩手県の判断が必要です

六万人の署名を政府・国会へ

署名は、九月二五日現在、六万五〇八筆が事務局に届いています。全国の広範な市民からの自発的な参加がありました。組織もお金もない多くの市民運動である私たちの呼びかけが、大きな反響を呼びました。

いのちの危機をもたらし政策は改められなければなりません。九月末以降、臨時国会終了直後を目処に上京し、六万五千の署名者の声を内閣と国会に届ける予定です。

日本科学者会議主催「必要・安全・安心か？再処理・プルトリウム」全国シンポジウム

日本科学者会議の主催で、第一九回原子力発電問題全国シンポジウムが、九月二日青森市内に同会員や一般市民約百人を集めて開催されました。同会岩手支部の武井隆明氏や青森支部松山力氏、元原研の市川富士夫氏、元動燃職員円藤正道氏らが科学者の立場から「再処理工場の問題点」を報告しました。

六ヶ所村ラブソナイ

上映会・上野藤沢

今、六ヶ所村で起きている事を知ることから始めませんか

十月六日(土)

上映①十三時三〇分

②十六時三〇分

会場

藤沢町文化交流センター

12F視聴覚室

入場料一般(含む高校生)五〇〇円

主催 上映会in藤沢

実行委員会

問い合わせ

〇八〇一八二一三

一〇八〇四(午前九時〜午後五時)

(上映会予定)

平泉 十一月十八日

花巻 十一月十一日

本吉 十二月二日

放射能を流すな！各地で声あがる

=放射能を海に空に垂れ流す！ そんな馬鹿げたことが許されるわけがない=

六ヶ所再処理工場の環境破壊の行為に対して各界・各方面から批判の声があがり、反対の運動が始まっています。

サーファーが署名運動開始

海のスポーツであるサーフィンの団体である[サーフライダーファウンデーションジャパン]は、「海や空を放射能で汚す《六ヶ所再処理工場》の本格稼働の中止を求める署名」を集める活動を開始しました。

美しい自然の海と日々親しんでいるからこそ、放射能汚染は許せない、という思いから立ち上がりました。問い合わせは rokasho@surfrider.jp

漁業者・消費者団体全国ネットワーク署名行動

東京と青森でキックオフ集会を成功させた6消費者団体による『「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク』の署名運動も、消費者の立場からのものと、重茂漁協など漁業者の立場からのものがセットで取り組まれています。漁業者団体には新たに田老漁協も加わり、6漁協となりました。連絡先は 日本消費者連盟(電話 03-5155-4765)など消費6団体と重茂など6漁協。